

千年の森便り No.116 2013.5.23

ちば千年の森をつくる会 事務局長 伊藤道男 sennennomori@hotmail.co.jp

<http://www.7a.biglobe.ne.jp/~toyofusajima/>

活動の記録

5月19日(日)晴 参加は新井孝男、新井通子、石松夫妻、伊藤、鶴沢、苅米、久我夫妻、坂本、中田夫妻と子供達、福島、真鍋、み、村野。加えて県自然観察指導員協議会の田島正子、小林義和、小川、川北、武田さん、佐倉市の寺村夫妻、露木、日向さん等お迎えし総勢30名。雨予報に反して好天候に恵まれ、午前中は新緑の県民の森の林道を歩いて観察を楽しみ、午後は豊英島で昼食の後、各グループに分かれ観察や調査を行いました。(真鍋)



新緑の観察会は30名参加の大盛況

○県民の森林道の観察会

案内は坂本文雄さん、コースは昨年同様キャンプ場～ロッジ村～松節橋～豊英湖東側の奥地を経て島入口に至る5km強。ウグイス、エナガ、シジュウカラ、ホトトギス、コゲラ等の声にカジカガエルの鳴き声も聞こえる新緑の林道の両側で目についた植物を列記すると、ウツギ、フサザクラ、ミヤマナルコユリ、ウラジロ、タツナミソウ、ヤマツツジ、ドクウツギ、ヒメウツギ、マルバウツギ、バイカウツギ、ウリカエデ、ナワシログミ、マユミ、ヤブムラサキ、モミジガサ、タニギキョウ、クサアジサイ、サルナシ、ツルリンドウ、コケリンドウ、テリハノイバラ、ヒメコマツ、満開のジャケツイバラ、崖のイズノシマダイヤモンドソウやケイワタバコの大群落などなど。時間があればもっと観察と撮影と解説を楽しめましたが、やむを得ず後ろ髪を引かれる思いで歩を進めました。モンキアゲハ、オナガアゲハ、ジャコウアゲハ、クロアゲハ、ニホンカワトンボ、ハンミョウ、オオゲジ等昆虫も次々に現れ、昆虫少年は捕獲と観察に、大人たちは観察と撮影に大忙し。案内の坂本さんや昆虫や植物に詳しい自然観察指導員の方々も質問攻めに大忙し。長いトンネルには真っ暗やみのなかキクガシラコウモリが5～6匹、短いトンネルにも1匹。昆虫少年は動く生き物を次々に捕獲し、大人たちもじっくり観察。こうなると列は遅々として進



興味深い説明に耳を傾け



生き物を捕獲しじっくり観察

まず、予定時間を大幅にオーバーし、1時前ようやく豊英島に辿り着きました。(真鍋)



バイカウツギ 坂本文雄 5/19



ジャケツイバラ 小川洋子 5/19



コケリンドウ 寺村敬子 5/19



オオゲジ 田島正子 5/19

(おまけ) 県民の森林道観察時に確認した鳥類 ヤブサメ、ヒヨドリ、ウグイス、シジュウカラ、コゲラ、ツバメ、エナガ、トビ、ホトトギス、センダイムシクイ、ヤマガラ(福島)

○島内の案内

遅い昼食後、公開行事に遠路参加された方々を対象に1時間ほど島内の案内をしました。時間の関係で全部は回れず、祠山から禁断岬方面だけでしたが、咲き終わったエビネの株の多さ、カンアオイの葉の多様さに皆さんが驚いていました。同じ千葉県内でも北総の里山とは植物相が随分違うのも印象的だったようです。会員になれば季節ごとに色々異なった表情が見られると入会をお勧めしましたが、やはり県中部からの距離と交通手段がネックになるようです。(坂本文雄)

千年の森-自然観察会に参加して

自然観察指導員 川北紀子さん

豊英ダム湖にある無人島で自然観察会があると聞いて、すぐに参加を希望しました。初めてたずねる無人の島・・・どんな自然がみられるのかとっても楽しみでした!!

清和県民の森からゆっくりと自然観察しながらの道のりは、お天気にも恵まれ新緑の中、とても気持ちの良いウォーキングでした。ウツギやガマズミの白い花がたくさん咲く中ジャケツイバラの黄色の花はとても印象的で輝いていました。

つり橋を渡って、いよいよ島へ・・・自然の豊かさの素晴らしい事は言うまでもありませんでしたが会の皆さんの日頃の活動のご苦勞をひしひしと感じながら、観察会を堪能させていただきました。是非また、季節をかえて島にお邪魔したいと思います。

○植生保護柵内外の植生調査

シカが島内の植生に与えている影響を明らかにすることを目的として、植生保護柵内外の植生調査を行いました。今回は第2回目で、調査したのは2007年9月に巨木林内に設置した10×10mの植生保護柵の内外です。

調査箇所は、高木層にコナラが優占する落葉広葉樹林で、コナラの樹高は約20m、亜高木層にはヤマボウシ、アワブキ、エゴノキなどがみられます。

シカの食害の影響を受けやすいと考えられる低木層(高さ1~3m)と、草本層(高さ0~1m)について比較した結果は以下のとおりです。

低木層の植生率と出現種数は、柵内が5%、6種、柵外が1%、7種と柵の内外で近い結果となりました。出現種は、ヤブムラサキ、イヌガヤ、ヒイラギなどです。一方、草本層の植生率と出現種数は、柵内が90%、48種に対し、柵外は1%、20種となり、柵外は柵内に比べて植生率、出現種数とも大幅に低くほとんど植生がない状況でした。この草本層の植生率と出現種数の違いは、シカの食害による影響が大きいと考えられます。

植生保護柵を設置してから約6年が経過し、柵内外の植生の違いは見た目にも明らかとなっていますが、植生調査を行うことによりあらためてシカが豊英島の植生に与えている影響の大きさを感じました。調査データは別途整理。(福島)



植生保護柵内の調査



植生少ない柵外の調査

○植生保護柵設置区域検討

植生保護柵内外の歴然とした植生の相違から、豊英島の自然植生保護のため、今年度新たな区域に保護柵を設置することになり、いくつかの候補区域の実地検証を行いました。福島さん提案のスズタケ群落の保護については、スズタケ群落が残っている吊橋西側斜面の一定面積を選定しました。この区域は6月活動日に設置します。

新井さんと栗山さん提案の千年広場東と千年広場南のコナラ林については、景観の問題、観察その他での人間の出入りが制約されること等の問題もあり、選定が保留されました。更に「保護すべき豊英島の自然植生とは何か？」との問題提起もあり、区域選定までに十分な議論が必要です。（真鍋）

○野鳥観察

時間が足りず、ホテイ岬方面未調査につき、別の日に改めて調査したいと思います。

中田家の子供の誰かが「今日はトビが少ない」とつぶやいていました。私も吊り橋を渡る時は空全体を見回して何羽いるか数えるのが常ですが、今回に限っては1羽も見えませんでした。集合場所の駐車場では飛んでいるのが見えましたし、その後島内では声も聞こえていましたので、いない訳ではありませんが、確かに少ないと思いました。その訳を考えてみると

- 1 季節的なもの 繁殖期に入り抱卵中であれば、巣にこもっている鳥がいるので全体で半減したように見える
- 2 人間との関わりによるもの 不況や高齢化によりヘラブナ釣り人口が減少→主な餌になる弱って浮いたヘラブナが減少→豊英湖周辺でトビの生息数が減少（ヘラブナ釣りブームの前の状態に戻る）
- 3 カワウとの競合 魚を捕ることで一枚上手のカワウが近年定着しているの、餌のおこぼれが少なくなっているかも知れません。

繁殖期が終り、今年生まれの若鳥が飛び出すと、目にする数が多少は増えると思いますが、どうなるでしょうか？

（坂本文雄）

お知らせ

○6月の定例活動日

6月の定例活動日は6月9日（日）です。9時30分県民の森駐車場集合。朝全員でシカ個体数調査、水辺清掃を行い、グループに分かれて植生調査（食害調査）、植物調査、野鳥調査、看板整備、クロムヨウラン調査など行います。スーパーの買い物袋各1枚持参下さい。時間の余裕あれば湖対岸の植物観察等行います。

○6月の臨時活動日 日程が決まり次第お知らせします。